

共通論題趣旨：「サステナブルファイナンス」

一橋大学 田村俊夫

「サステナブルファイナンス」とは、SDGs（国連・持続可能な開発目標）が目標とするような持続可能な社会を実現するために、ESG（環境・社会・ガバナンス）要素を投融資判断に組み込んだ民間の金融活動を指す。特に、2015年の「パリ協定」に準拠した気候変動問題への対処には公的資金を上回る巨額の民間資金の動員が不可欠であり、「グリーンファイナンス」の重要性が急速に増している。

サステナブルファイナンスの資金提供関係者は主に、株式投資家、債券投資家、銀行、保険会社である。手法としてはESG投資（インパクト投資を含む）、グリーンボンド/サステナビリティボンド、移行ファイナンスなど多様なものがあるが、サステナブルファイナンス市場の健全な発展を促す上で、データの計測・開示と開示されたデータの評価はきわめて重要な問題である。データの計測・開示については、気候変動に関するTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の開示基準等、近年、急速な進展がみられる。データのavailabilityの増大はまた、新たな学術研究の進展を促すであろう。他方で、開示された情報等に基づくESG評価については、評価機関の乱立とESGスコアリングの不整合など解決すべき問題が残されている。

サステナビリティファイナンスは主に資金提供者の立場からみたコンセプトであるが、実際に温暖化ガス削減等のサステナビリティ目的を達成するのは資金提供を受ける企業である。気候変動問題への対処を始めとする持続可能な社会の実現には、投資家のイニシアティブのみならず、企業経営者のイニシアティブが必須である。この両者のイニシアティブを統合的に推進する上で、エンゲージメントが重要となる。

本共通論題では、サステナブルファイナンス分野の代表的な実務家および研究者を招き、以上の論点を中心に議論することとしたい。パネリストには、金融庁金融国際審議官として2021年7月まで気候変動関連開示等を巡る国際交渉を担ってきた森田宗男氏（テーマ：気候変動関連金融に係る国際的な規制当局の動向）、ESG、サステナブルファイナンス研究の第一人者であり実務にも通暁した根本直子氏（テーマ：インパクト投資、ESGスコアリング）、長らく外資系投資銀行でESGエンゲージメントの責任者を務めサステナブルファイナンス有識者会議の委員でもある小野塚恵美氏（テーマ：サステナブル経営とサステナブル金融の接続）の3人を迎える。討論者は野村資本市場研究所・野村サステナビリティ研究センター長の江夏あかね氏が務める。